

事例番号 097 市民活動グループ連携のまちづくり（大阪府大阪市・船場地区）

1. 背景

大阪は、江戸時代には全国諸藩の物流の拠点として、わが国の商業の中心として発展してきた。船場はその大阪の中心市街地であり、商都・大阪のシンボルともいえる街である。船場には江戸期以来全国から人々が集まり、各時代の歴史・文化遺産も多く、人々の交流の伝統が現在に息づいている。しかし近年は企業の流出や東京への一極集中などが進み、大阪のまちの活気が減る傾向が見られる。特にバブル崩壊以降はその傾向が顕著となり、船場の街は「シャッター通り」などと揶揄されるようになっていた。このような状況下、いくつかのグループが集まって「せんば GENKI の会」を結成し、まち再生に乗り出した。



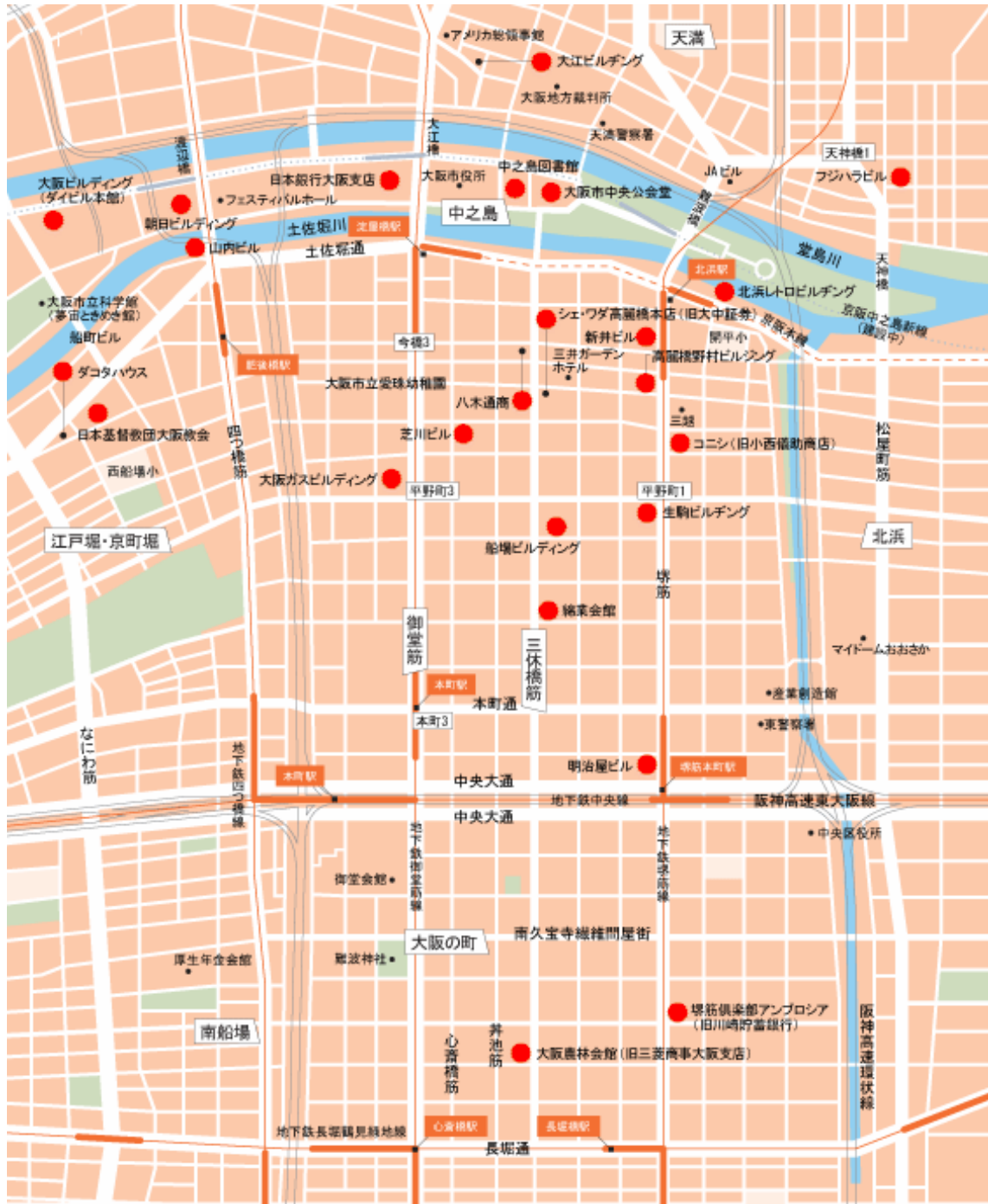
船場地区の位置（資料：せんば GENKI の会ホームページ）

2. 目標

「せんば GENKI の会」は、「船場が GENKI になると、大阪も変わる。船場を、自分たちの手で元気に満ち、魅力溢れる街にしよう！」を合言葉に活動している。その目標は、船場のまちを舞台に多様な活動を展開するグループを発見・創出しつつ、その相互交流を通して効果をまちづくりへ波及させ、市民による都心再生(船場の再生)を実現することである。

3. 取り組みの体制

「せんばGENKIの会」を構成するグループは、地域の商業団体(大阪船場井池卸連盟、三休橋筋発展会、船場センタービル商栄会など)、異業種交流会(船場経済倶楽部、寄合びんご)、地域のエリアマネジメント団体(長堀 21 世紀計画の会、御堂筋まちづくりネットワーク)、地域の伝統文化芸能を継承する団体(船場賑わいの会、太閤路地プロジェクトなど)など多数かつ多様である。さらに、船場を研究対象とする大学研究者・学生など様々な角度からまちづくりに関わる人々との連携により、協働のイベント企画、情報発信などを行っている。



船場地区 MAP (資料:せんば GENKI の会ホームページ)

4. 具体策

(1) 「せんば GENKI の会」の設立

船場のまちには、地域の生活文化とビジネスとを支えてきた旦那衆(町衆)の歴史がある。そのような歴史的土壌があったことから、近年まちの衰退が表面化してきた際、それに危機感をもった商店主や住民の間に自分たちの街を自分たちの手で復興しなければならないという気運が高まった。そのような気運の中で、商店街や町会などのほか、新しい町衆ともいえる市民団体、NPO など数多くのグループがまちづくり活動に関わるようになってきたが、それらの活動は個別ばらばらに行われている状況であった。しかし次第にそれらの間の相互交流が行われるようになり、以下のイベントが連続して実施された。

2001 年	都市公団の「船場げんき提案(コンペ)」
2002 年	船場の「人」を中心にしたイベント「SEMBA 博」
2003 年	卸売商店街を巻き込んだ地元イベント「せんば GENKI まつり」

これらのイベントにおける交流がきっかけとなり、「せんば GENKI まつり」に参加したいいくつかのグループが集まって、船場・大阪を元気にしようという大きな目標に向けてともに活動しようと「せんば GENKI の会」を設立した。その目的は、参加グループそれぞれの自主・独立した活動を尊重しつつ、グループのネットワークを構築して相互に理解、支援しようというものであった。

(2) 「せんば GENKI の会」の活動概要

① ネットワーク

船場再生のための様々な活動をそれら相互の相乗効果で大きなムーブメントに成長させていくため、船場で活動する諸グループの理解と協力を仰ぎつつ、参加を呼びかけて活動の輪の拡大を図っている。

② プロモーション

船場の魅力・元気について総合的に情報発信するため、共同のホームページを運営している。

<ホームページの内容>

a) 活動グループの紹介と交流

活動グループの概況を総合的に紹介するとともに、グループの相互交流や新たな活動グループの萌芽を支援する。

b) せんばイベントスケジュール

活動グループのスケジュールを一元的・総合的に掲載することにより、活動の広報効果及び相乗効果を高める。

c) せんばガイド/ライブラリー など

活動グループのステージとなる船場の街の歴史や魅力などを広く紹介する。

また、「船場げんき提案」(2001 年)や「せんば GENKI まつり」(2003 年)など、これまでのイベン

トの紹介や大学、研究会等の船場に関する報告等を掲載している。

③ プロデュース

船場をより「魅力的なまち」にするための企画を提案・実施している。

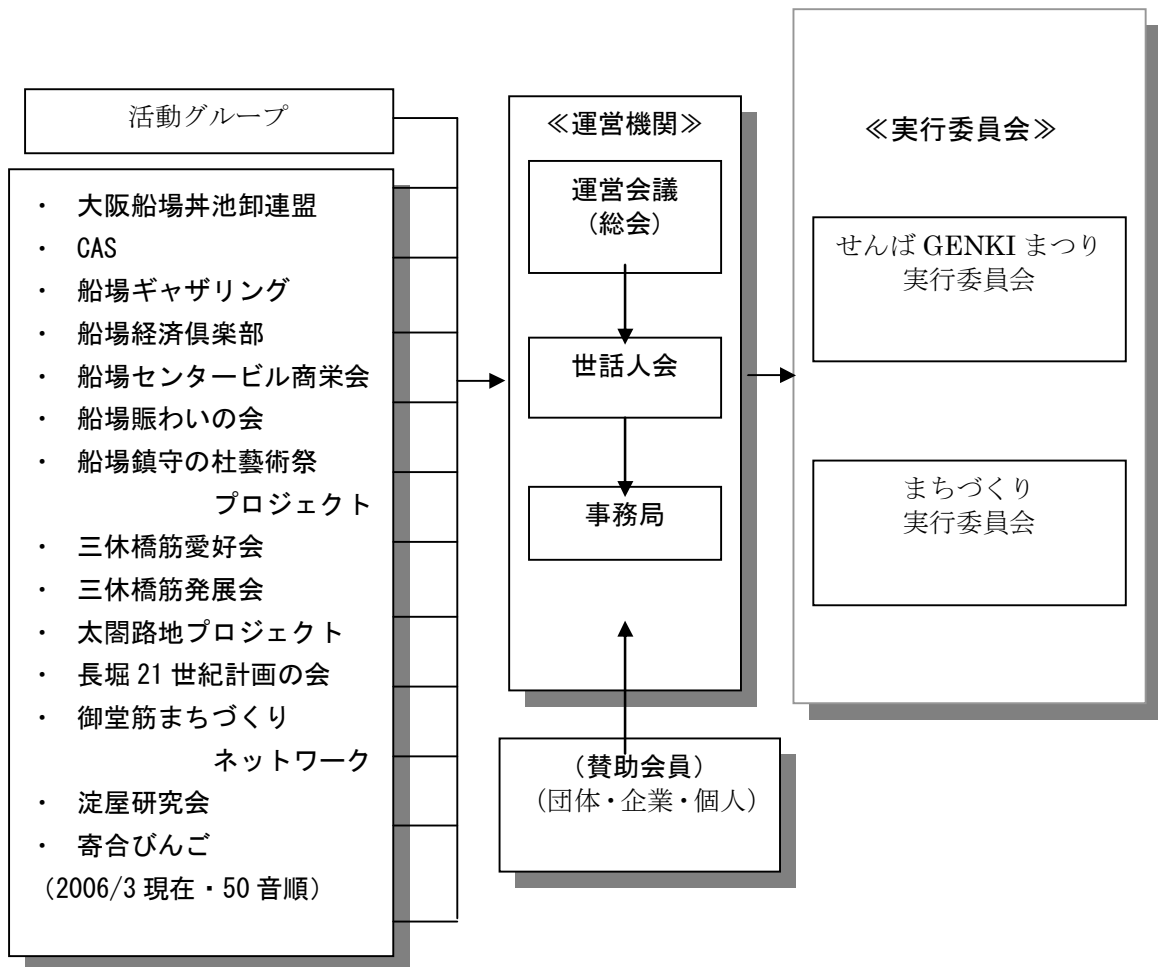
a) せんば GENKI まつり実行委員会

2003(平成 15)年以降、毎年秋に、それぞれの活動グループのイベントをネットワークした「せんば GENKI まつり」を実施している。

b) せんばまちづくり実行委員会

毎年度末、活動グループの活動報告とともに他地域・他団体との地域交流を兼ねて「船場フォーラム」を実施している。2005(平成 17)年 3 月には歴史都心地区 3 地区(銀座・横浜・京都)のまちづくり団体を招き、「柔らかな連携まちづくり」をテーマに交流ディスカッションを実施した。2006(平成 18)年 3 月には日本橋・銀座・福岡・横浜の地域・大学を招き、「地域と大学連携を考える」をテーマに交流ディスカッションを実施した。

「せんば GENKI の会」 組織図 (資料:せんば GENKI の会)





せんばGENKIまつり・デニムコンテスト (写真提供:せんば GENKI の会)



世話人と学生との会議風景 2006年 (写真提供:せんば GENKI の会)



船場フォーラム（写真提供:せんば GENKI の会）

5. 特徴的手法

「せんば GENKI の会」は、地域資源を活かして地域の魅力を創造してきた活動グループのフラットな連携と相互支援の仕組みを採っていることが大きな特徴である。

また、「せんば GENKI の会」に参加しているそれぞれのグループは、エリアマネジメントを目指すまちづくりグループ、異業種交流を主催するグループ、地域の伝統文化・芸能の継承を目指すグループ、地域の商店組織など多彩であることから、相互交流を通してそれぞれが地域の新しい価値・魅力を発見できてきている。これも大きな特徴といえる。

さらに、それらの活動グループには従来からの居住者、生業者等のいわゆる地元地権者に加えて、地域で働く人々、地域で学ぶ人々など地域を利用する人々が参加しており、新たな都心の担い手とも考えられる人々をも巻き込んだまちづくり活動になっている。これも大きな特徴である。

6. 課題

船場地区は、戦争や地震の大災害を受けながらも約 400 年前の街の骨格を維持している歴史的なまちであるため、近代的な都市基盤整備は立ち遅れている。そのため、不法駐車・駐輪が目立つなど、快適都市環境を実現する上での課題がある。ただ、近代化が立ち遅れたが故に歴史建築物をはじめとする魅力的な街の資源が残ったという事実もある。これらの事情をバランスよく勘案し、今後は地域固有の資源を保全、活用しつつ、既存空間の活用に関する新たな地域ルールづくりなどを行うことにより、地域固有の都市環境を創造していくことが求められる。

また、船場地区は今日においても圧倒的に昼間人口の多い街であり、夜間は人通りの少ない寂しい街でもある。近年、マンション建設等により新住民が増えてはいるが、地域における交流は少ない。今後はさらに多様な人々を巻き込む活動を創出するとともに、そのネットワークを通して地域の価値を共有していくことが課題となる。

(参考・引用文献)

せんばGENKIの会ホームページ